

1 調査名称：中京都市圏総合都市交通体系調査パーソントリップ調査業務委託

2 調査主体：愛知県

3 調査圏域：中京都市圏

4 調査期間：令和2年度

5 調査概要：

本業務は第6回中京都市圏PT調査の2年目として、令和3年度に予定している本体調査に向けた実施方法の妥当性や回収率等を把握するための事前調査を実施したものである。

具体的には、まず先行的に実施したWEB調査への依頼はがき（圧着はがきカラー両面（計4面））を調査対象世帯に発送した。次にWEB調査で回答が得られなかった世帯に対して、説明資料、依頼状、記入例、世帯票、個人票を印刷したうえで、返信用封筒とともに発送用封筒に封入し、発送した。回収した調査票は別途業務で作成されたマニュアルに基づき点検・整理のうえパンチ入力した。最後に確定した入力データを用いて、市町別及び調査方法別の回収率、調査設問別の回答状況及び回答率、トリップの特性を整理・分析することにより、令和3年度に実施予定の本体調査に関する改善点等を取りまとめた。

一連の業務遂行にあたっては、中部地方整備局および岐阜県、三重県、名古屋市と協議調整のうえ実施した。

I 調査概要

1 調査名称：中京都市圏総合都市交通体系調査パーソントリップ調査業務委託

2 報告書目次

1 章. 業務概要

1.1 業務概要

1.2 業務方針

2 章. 事前調査の準備

2.1 調査対象者の抽出及び名簿作成

2.2 調査票等の作成

3 章. 事前調査の実施

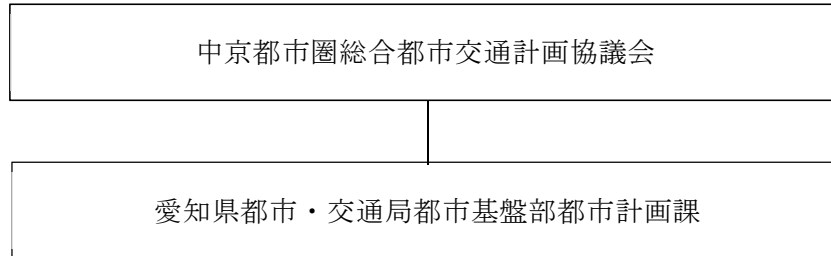
3.1 調査票の配布及び回収

3.2 調査対象者からの問い合わせ対応

3.3 データ整備

4 章. 令和3年度本体調査に関する改善点の取りまとめ

3 調査体制



4 委員会名簿等：

**中京都市圏総合都市交通計画協議会
委員会名簿**

	所 属	役 職(氏 名)
会 長	中部地方整備局	局 長
顧 問	関西大学 教授	秋山 孝正
	三重大学 教授	朝日 幸代
	中部大学 教授	磯部 友彦
	名古屋大学 教授	中村 英樹
	名古屋工業大学 教授	藤田 素弘
	名城大学 教授	松本 幸正
	名城大学 教授	水尾 衣里
	名古屋大学 教授	森川 高行
	委 員	(一社)中部経済連合会
名古屋商工会議所		常務理事・事務局長
国土交通省都市局		都市計画調査室長
国土交通省道路局		道路経済調査室長
中部運輸局		交通政策部長
大阪航空局中部空港事務所		次長
中部経済産業局		総務企画部長
東海農政局		企画調整室長
愛知県警察本部		交通部長
中日本高速道路(株)名古屋支社		副支社長
独立行政法人都市再生機構中部支社		支社長
名古屋高速道路公社		副理事長
中部地方整備局		企画部長
中部地方整備局		建政部長
中部地方整備局		道路部長
中部地方整備局		港湾空港部長
愛知県		都市整備局長
愛知県		建設局長
愛知県		政策企画局長
岐阜県		県土整備部長
岐阜県		都市建築部長
岐阜県		商工労働部長
三重県		県土整備部長
三重県		地域連携部長
名古屋市		住宅都市局長
名古屋市		総務局企画調整監
名古屋市		緑政土木局長
名古屋市		交通局長

○顧問は五十音順

II 調査成果

1 調査目的

(1) 業務背景

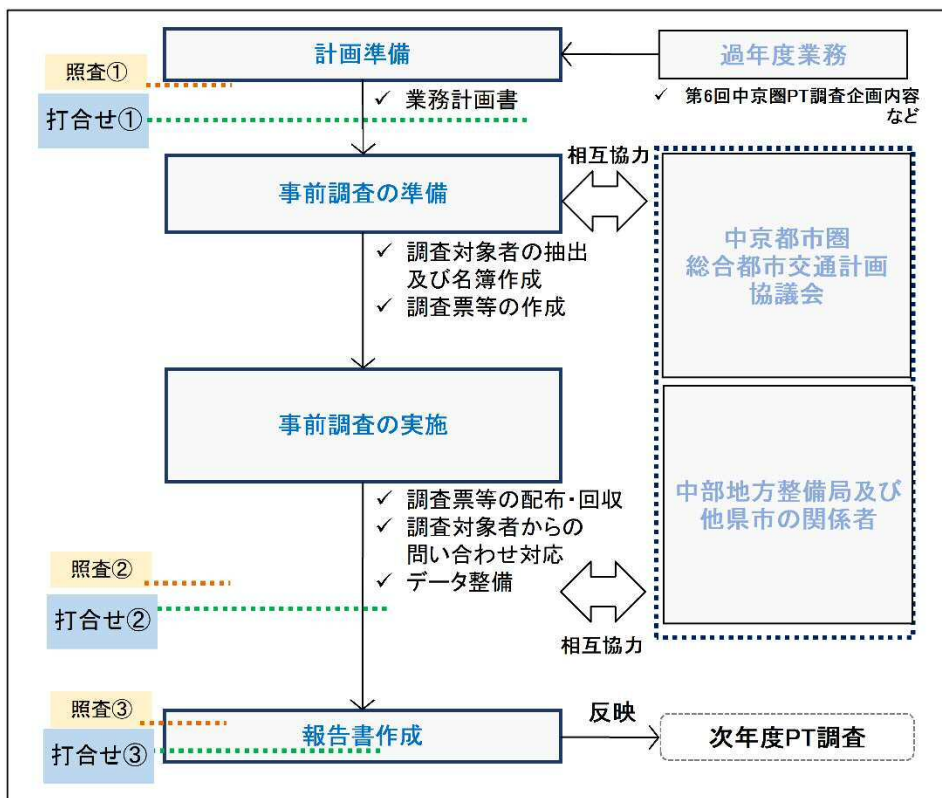
中京都市圏総合都市交通計画協議会は、「人」の動きを調査するパーソントリップ調査（以下「PT 調査」という。）について、昭和 46 年、昭和 56 年、平成 3 年、平成 13 年、平成 23 年の 5 回実施してきた。これらの調査データをもとに将来予測等を実施し、中京都市圏が今後直面すると考えられる都市交通課題やその対応等に関する方向性や施策を提案してきた。最近の中京都市圏の社会情勢をみると、高速道路網及び鉄道ネットワークの整備が進められ、人や物の動きが大きく変化しているところであり、さらにリニア中央新幹線の開業を控えている。また、人口減少・超高齢社会の到来、環境・防災意識の高まり、高度情報化やグローバル化の進展など、社会構造の大きな変換期を迎えている。

6 回目となる中京都市圏 PT 調査では、都市交通の現況を把握するとともに、将来の動向を踏まえて、望ましい交通体系のあり方について検討するものである。

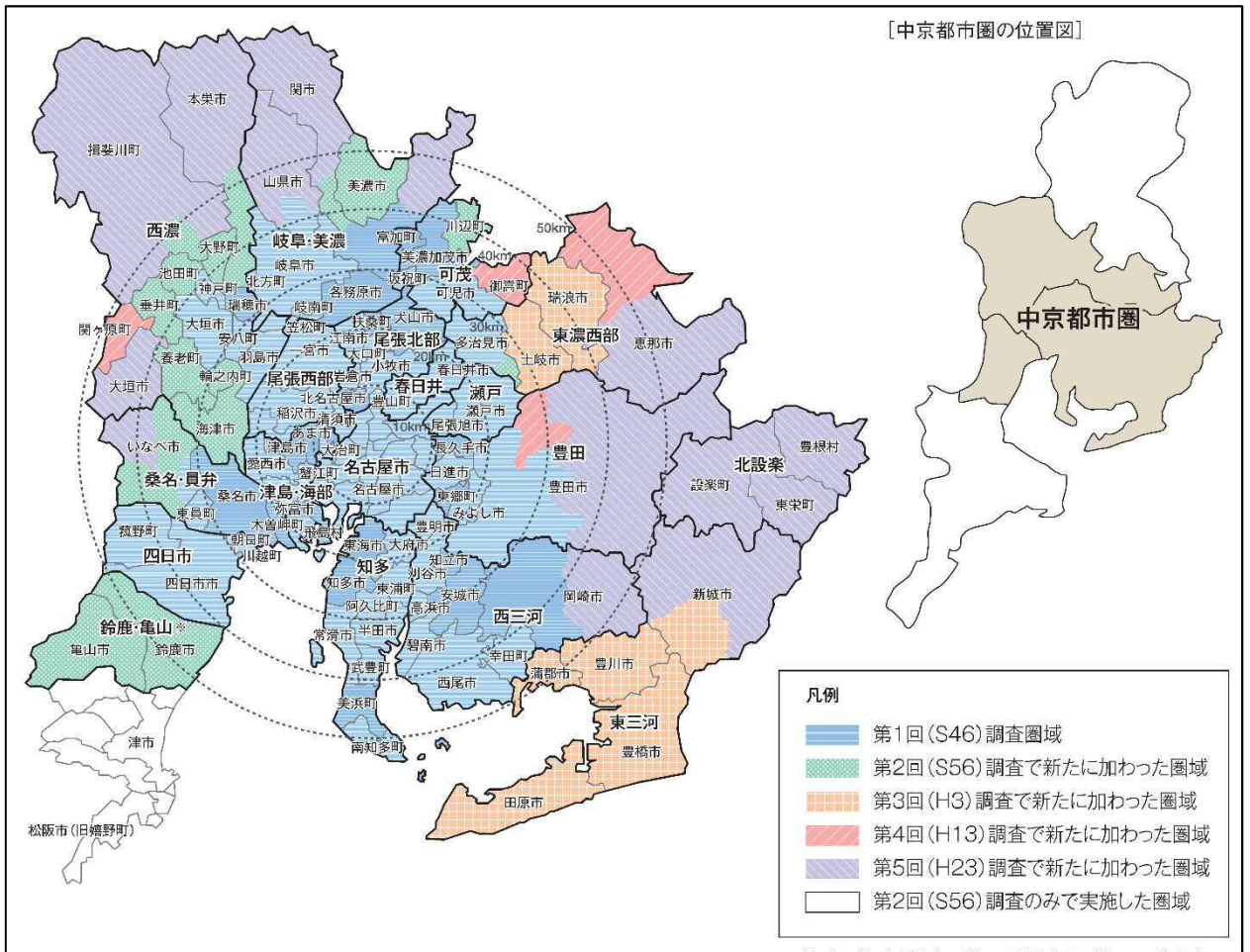
(2) 業務目的

本業務は第 6 回中京都市圏 PT 調査の 2 年目として、令和 3 年度に予定している本体調査に向けた実施方法の妥当性や回収率等を把握するための事前調査を実施するものであり、愛知県、岐阜県、三重県、名古屋市が共同で実施するものである。

2 調査フロー



3 調査圏域図



4 調査成果

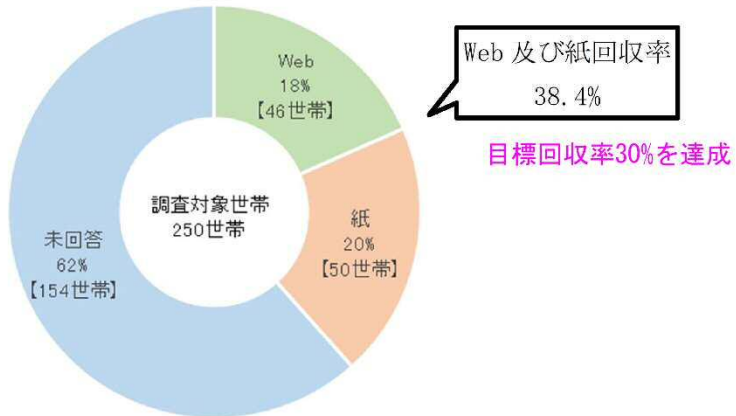
(1) 調査日及び発送・回収スケジュール

	Web 先行はがき	紙調査票
発送日	○	●
調査対象日	↔	←...→
返送期限	☆ (回答期限)	★

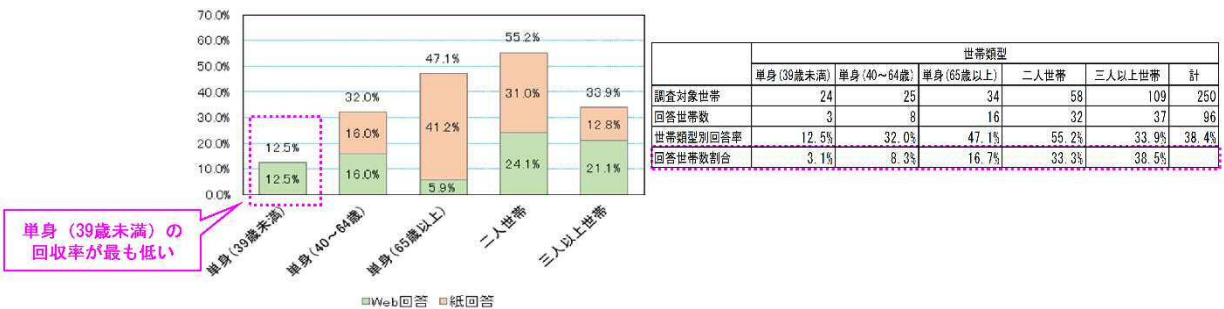
発送日区分	9月			10月																														
	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
第1ロット				○						↔											☆													●
第2ロット												○				↔												☆						

発送日区分	11月																															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月		
第1ロット				←...→									★																			
第2ロット						●					←...→										★											

(2) 発送実績・回収率



< 世帯別の回収率 >



(3) 帰宅トリップの記入漏れ（課題）

✓ 最終トリップにおける目的地構成について、Web 回答では「自宅」の割合が 86% と高い。しかし、紙回答での「自宅」の割合は 60% と低い。紙回答において、最終トリップにおける目的地が「自宅」となっていない回答が 40% も占めている。

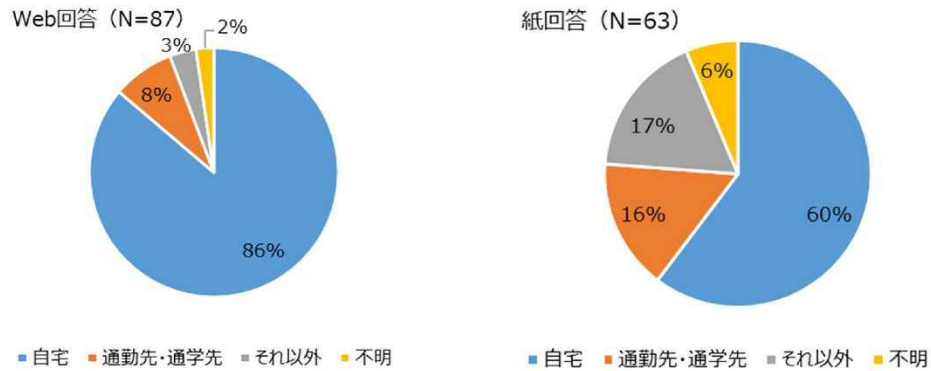


図 最終トリップにおける目的地構成(左図:Web 回答、右図:紙回答)

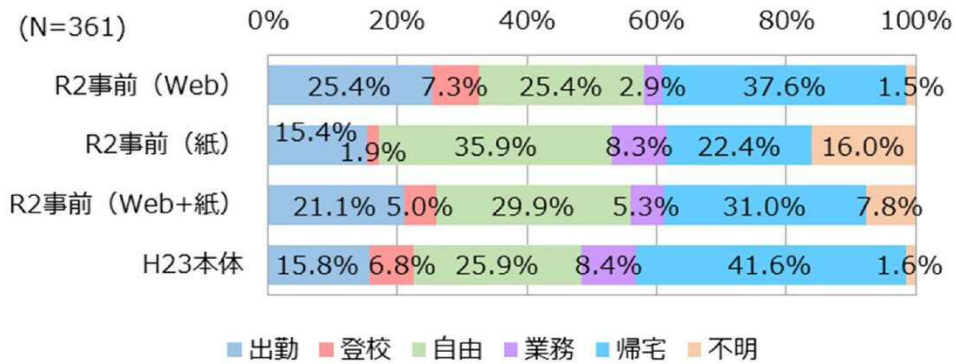


図 【参考】トリップ目的構成(H23 本体調査との比較)

(4) 端末交通手段の記入漏れ（課題）

✓ 鉄道またはバス利用者における端末交通手段の欠落について、Web 回答では 24% と高くなった。

【愛知県】 表 鉄道またはバス利用者における端末交通手段の欠落(Web 回答)

鉄道またはバス利用者	アクセス手段欠落		イグレス手段欠落		アクセス・イグレスどちらかが欠落	
25	4	16.0%	3	12.0%	6	24.0%

表 鉄道またはバス利用者における端末交通手段の欠落(紙回答)

鉄道またはバス利用者	アクセス手段欠落		イグレス手段欠落		アクセス・イグレスどちらかが欠落	
5	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

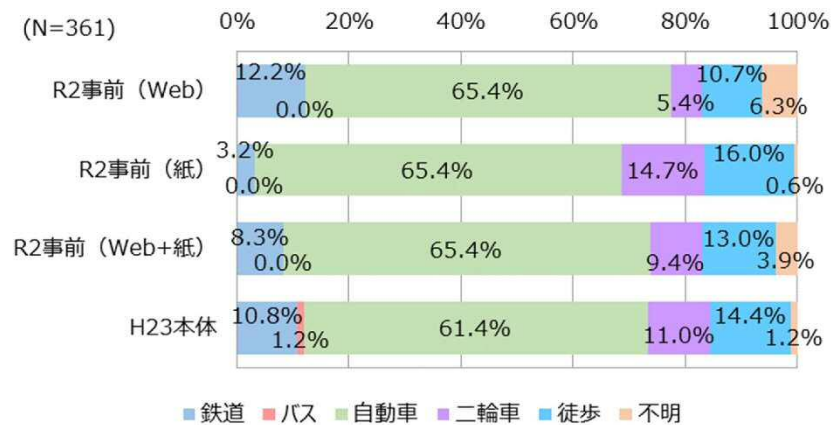


図 【参考】代表交通手段分担率(H23 本体調査との比較)

(5) 外出率・生成原単位

- ✓ Web プラス紙回答について、事前調査の愛知県の外出率は 74.9%（Web：75.2%、紙：74.4%）となり、平成 23 年度に実施された第 5 回中京都市圏パーソントリップ調査の愛知県データ（外出率：81.2%）と比べると低下している。
- ✓ 事前調査の愛知県のネット原単位（外出した一人当たりの平均トリップ数）は、1.78（Web：1.72、紙：1.86）となり、平成 23 年度に実施された第 5 回中京都市圏パーソントリップ調査の愛知県データ（ネット原単位：2.37）と比べると低下している。また、グロス原単位（非外出者を含む一人当たりの平均トリップ数）は、2.40（Web：2.33、紙：2.50）となり、こちらも平成 23 年度に実施された第 5 回中京都市圏パーソントリップ調査の愛知県データ（グロス原単位：2.92）と比べると低下している。

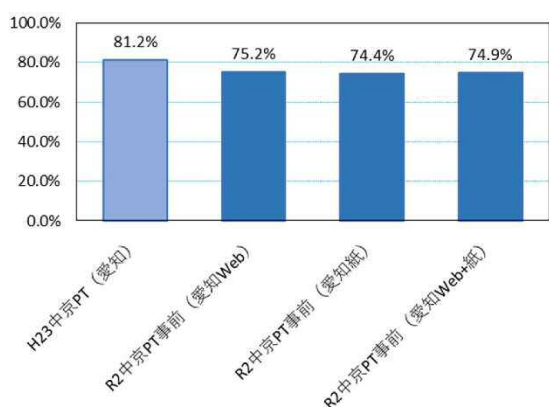


図 外出率

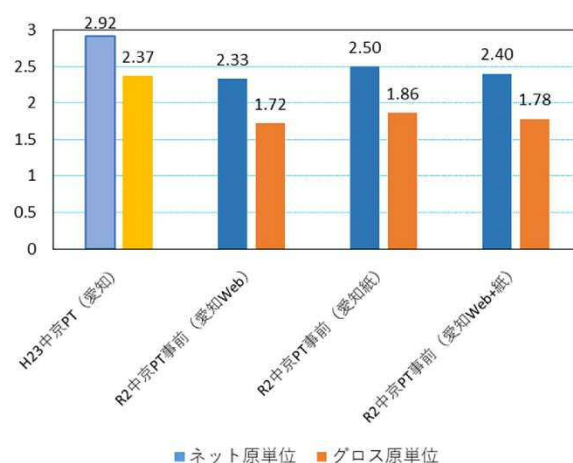


図 生成原単位(ネット・グロス)

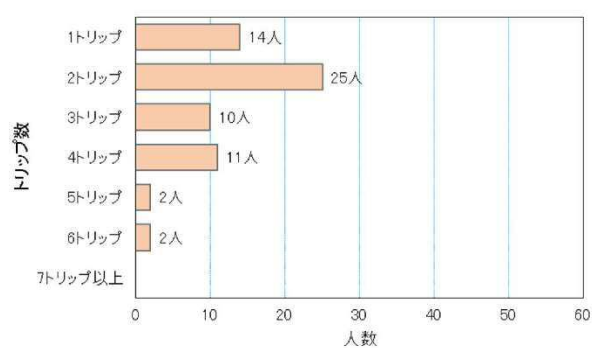
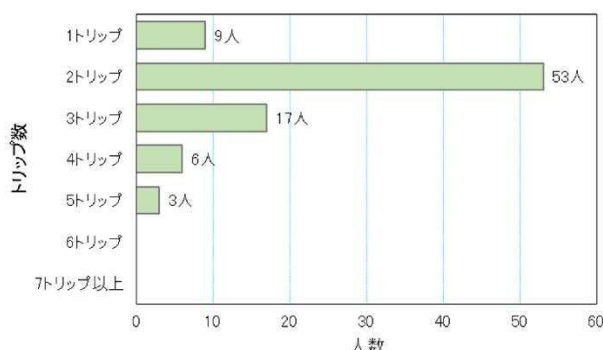


図 【参考】事前調査におけるトリップ数分布(左図:Web 回答、右図:紙回答)

(6) 令和3年度本体調査に向けた改善点のとりまとめ

	課題点	改善点
①調査票の回収率	愛知県全体として、39歳未満の単身世帯の回収率が最も低いため、 <u>39歳未満の回収率を向上させる。</u>	<p>✓<u>39歳未満がいる世帯にはWEB回答を促すよう、以下のような対応を実施する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コピー&ペースト機能の実装（WEB）等の回答システムを改良する。 ・SMSを活用した広報等を実施する。
②回答状況について、課題がみられた主な設問	<p>【紙調査票】</p> <p>■<u>帰宅トリップの記載</u></p> <p>最終トリップにおける目的地が「自宅」となっていない回答が多いため、帰宅トリップをきちんと記入してもらう必要がある。これは、WEB調査では最終目的地が「自宅」となっていない場合はエラーが出るが、紙調査票ではそのようなシステムが組めないため、回答状況が悪くなったと想定される。</p> <p>※なお、生成原単位は、平成29年度の結果と比較して低下しており、これは、帰宅トリップの回答状況が悪いため、生成原単位が正値に反映されていない可能性が高いと考えられる。また、新型コロナウイルス感染症による外出自粛により、トリップ数が減少し、生成原単位が低下したことも考えられる。</p>	<p>✓<u>回答する範囲が明確となるよう、調査票を改善する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査票の“自宅に帰る移動も忘れずに記入して下さい。”という記載を目立たせる。（※エディタリングによる補完も併用して実施する。）
	<p>■<u>調査日に在宅で行った活動</u></p> <p>未記入率が高いため、外出の有無に関わらず、在宅で行った活動を記入してもらう必要がある。これは、WEB調査では“外出した場合でも回答して下さい”という旨が記載されているが、紙調査票自体にはそのような記載がないため、回答状況が悪くなったと想定される。</p>	<p>✓<u>補足文を調査票に記載し、記入を促す。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外出の有無に関わらずに記入してもらうよう、WEB調査と同様、“外出した場合でも記載して下さい”という旨の補足文を記載し、回答状況の改善を図る。
	<p>■<u>〇番目に行った場所の施設名称</u></p> <p>“番地・番”までの未記入があったため、よりジオコーディングの有効性を高めるために、“番地・番”まで記載が困難な場合は、“施設名称”の記載を促す。</p> <p>※番地・番がなくとも、施設名称の記載があれば、エディタリングにて住所を補完することができると、ジオコーディングの有効性が高まる。</p>	<p>✓<u>調査票の記入欄を目立たせて、記入を促す。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設名称の記入欄を赤枠で囲む等で目立たせ、記入を促す。
	<p>【WEB調査】</p> <p>■<u>鉄道またはバス利用者における端末交通手段</u></p> <p>紙調査票と比べて回答状況が悪いため、回答状況を改善させる。これは、紙調査票では記入例にイラスト等で説明があったが、WEB調査票では入力画面のみであったため、回答状況が悪くなったと想定される。</p>	<p>✓<u>WEB調査画面を改良する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・画面改良の一つとして、“回答例を見て下さい”という旨の補足文を追加し、回答例への誘導を行う。
	<p>【Web及び紙回答共通】</p> <p>■<u>同行者の人数</u></p> <p>任意回答ということもあり、回答状況が悪くなったと想定される。</p>	<p>✓<u>本当に必要な項目であるかを精査し、その上でWEBシステムを改良する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要・不要を精査し、必要な場合は、コピー&ペースト機能の実装（WEB）をし、不要な場合は、調査項目から削除する。